

損保ジャパン、SOMPOリスク

水害タイムライン作成ワークシヨツップ

疑似体験通じ災害対応を検討

損保ジャパンとSOMPOリスクマネジメントは6月6日、水害発生前後の状況の疑似体験を通じて自社事業所における具体的な対応策を検討する「災害対応ゲーム『STG-DX』」を活用した水害タイムライン作成ワークシヨツップ」をオンラインで開催した。当日は、製造業や保険代理店、卸売・小売業を中心幅広い業種からBCP担当者など105人が参加し、SOMPOグループが提供する災害リスク管理システム「SORAレジリエンス」のデモ画面を確認しながら、「STG-DX」を活用して水害対応のタイムライン(防災行動計画)を作成した。

冒頭、SOMPOリスクマネジメントサービス開発部リスクアラートフロームグループリーダーの犬飼篤氏があいさつし、「本日の内容は昨年の開催時のもと類似しているが、タイムラインの作成はBCPの基礎となる重要なプロセスなので、その意義を踏まえ、同じことの繰り返しと捉えず積極的に取り組んでいただければ幸いだ」と

呼び掛けた。

続いて、クラウドスマネジメントコンサルティング部BCM第2グループの迫裕菜氏による進行の下、演習が行われた。

「STG-DX」は、同社が開発した図上演習ツール「災害対応ゲーム(STG)」のデジタルコンテンツ版で、防災・減災に関する教育や演習を「いつでも・どこでも・だれでも」体験できる

もの。水害、地震、噴火などさまざまな災害に対応したコンテンツが用意されており、災害対策本

点などを登録することで、台風情報や積雪予測、地震、気象警報、避難情報などの必要情報を迅速かつ簡単に収集でき、災害時における素早い判断をサポートする。

平時の教育・訓練において二つのツールを併用す

き、災害時における素早い判断をサポートする。

平時の教育・訓練において二